

## 1 学校評価のねらいについて

学校評価は、学校運営の改善を図るために行われ、具体的には次のような点にねらいがある。

- (1) 学学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組みの適切さ等について評価し、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- (2) 各学校が、自己評価及び保護者・地域などによる評価の実施とその結果公表・説明により、適切に責任説明を果たすとともに、保護者・地位住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- (3) 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定の水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

## 2 学校評価の実施方法等について

## (1) 自己評価

職員アンケートの他、生徒アンケート・保護者アンケート等を活用するなど、展開している教育活動についての評価に係る情報を収集し、その結果を踏まえて組織的な評価を行う。また、課題の洗い出しとその原因の究明及び改善方策についても併せて検討する。

## (2) 学校関係者評価

学校が行った自己評価を踏まえて、その結果の妥当性を含め学校の課題及びその改善方策について、学校関係者が検討、評価する。千葉県では、すべての県立学校で「開かれた学校づくり委員会」を活用して行っている。

## 3 評価のまとめ ( ) 内は昨年度の数値

## 職員による学校評価

## (1) 学校運営について

「管理職を含む職員間の教育目標の共通認識ができている」という問いに、「よくあてはまる」「大体あてはまる」(以下では肯定的回答とする)との回答は、62.5% (61.9%)であった。数値の比較は、昨年度より若干上回ったが、これは重点目標を昨年度より踏襲し、職員会議や保護者会等で校長自らより具体的に説明したことで職員間の共通確認が高まり、数値の上昇につながったと思われる。

「教育目標(重点目標を含む)は社会の変化や生徒・保護者の要望に対応できている」という問いへの肯定的評価が66.1% (75.1%)であり、「生徒や保護者の要望に十分応じた教育課程が編成されている」という問いへの肯定的回答が66.1%

(73.5%)であったこと併せて、総合学科という特色と系列の充実発展も鑑み、今後も変化やニーズの現状を継続的に分析し、教育目標や教育課程に反映させていく必要があると考える。

「学校は、生徒・保護者・地域に積極的に情報を提供している」では、肯定的回答が78.5% (77.8%)であった。全校集会や保護者会での口頭による情報提供に加え、色々な媒体を活用した定期的な情報発信を積極的に行っている結果と考える。

## (2) 授業・学習指導について

「少人数学習など個に応じた学習指導に対応できている」は肯定的回答73.3%

(79.7%) であり少人数学習が定着してきていると考える。しかし「学力向上に向け、指導方法や内容に工夫・改善が図られ、わかる授業が展開されている」への肯定的回答は69.7% (76.6%) であり授業改善のため一層の努力が必要である。評価方法に関しては「生徒を適切に評価し、評価方法における対策に取り組んでいる」への肯定的回答80.4% (76.6%) が上昇したが、授業改善と並行し、継続的に取り組む必要がある。

「行事が精練され、十分な授業時間が確保されている」は肯定的回答64.3% (62.5%) であるが、行事に関しては、さらに精選していく必要があると考える。

### (3) 生徒指導について

「授業に真面目に取り組むよう、生徒への指導がなされている」は73.2% (77.8%)、「ルールやマナーなど、社会規範に関わる指導が適切に行われている」は71.5% (73.0%)、「学校は生徒一人一人に適した生徒指導を実践している」は75.0% (73.0%) と昨年と同様の肯定的回答であった。職員が色々な機会を捉え生徒指導を丁寧に行っている結果と考える。

「部活動・学校行事・生徒会活動に熱心に取り組むよう、指導が十分行われている」は肯定的回答が76.8% (79.3%) と昨年を若干下回っているが、若手職員中心に、積極的に取り組んでいる結果と考える。働き改革が叫ばれている中、部活動の充実をいかに図るかが課題となってくる。

### (4) 進路指導について

「生徒の進路希望に応じた、適切な進路指導が行われている」では、肯定的回答が82.2% (90.5%) であり、1、2年次よりのキャリア学習が定着してきているが、もう少し創意工夫をしていく必要があると考える。「進路情報は積極的に生徒・保護者に提供されている」も75.0% (82.3%) と肯定的回答が前年を下回った。生徒に対しては十分な情報提供ができて、保護者まで伝わらないケースも多々あると考える。

### (5) 健康・安全について

「健康や安全に係る教育が推進され、生徒の健康・学校管理が徹底されている」は肯定的回答が80.3% (79.4%) 「学習環境の整備が整っており、安全・快適な環境の保全ができています」は52.4% (62.5%) と前年度は上回ってはいるが、更なる職員一人一人の危機管理意識を高めて取り組んでいく必要があると考える。

### (6) 働き方について

「不祥事ゼロを目指し、職場改善に努めている」は肯定的回答71.4% (昨年は実施せず)、「メンタルヘルス、各種ハラスメント撲滅に向け意識の高揚を図っている」は60.8% (昨年は実施せず) であり、個々の職員の更なる意識改革と風通しの良い職場環境作りが求められる。「働き方改革に向け、総労働時間の縮減に努めている」は肯定的回答50.0% (昨年は実施せず) であり、行事の精選や部活動のガイドラインの厳守等に取り組む必要がある。

## 保護者による学校評価

### (1) 学校運営について

4項目の質問に対して、肯定的回答は約82～85%であった。しかし、「社会の変化や生徒・保護者の要望に対応している」に関しては、昨年度95.4%から83.3%に下がった。

### (2) 授業・学習指導について

3項目の質問に対して、肯定的回答は、約77%～83%であった。しかし、「先生方は、指導方法・内容に工夫・改善を加え、わかりやすい授業展開に努めている」に関しては、昨年度91.4%から76.9%に下がった。

### (3) 生徒指導について

4項目の質問に対して、肯定的回答は、約77%～83%であった。しかし、「生徒一人一人に応じた生徒指導を行っている」に関しては、昨年度91.3%から77.6%に下がった。

### (4) 進路指導について

「生徒の進路希望に応じた、きめ細かな進路指導を行っている」、の質問に関して肯定的回答は78.9%、「進路の情報を積極的に生徒・保護者に提供してくれている」に関しては72.8%であったが、両方の問いに関しても昨年度よりも肯定的回答は下がった。

### (5) 健康・安全について

「生徒の安全・健康管理に積極的に取り組んでいる」の質問に関して肯定的回答は82.0%、「学習環境の整備が整っており、安全・快適で清潔な環境の保全ができている」の質問に関しては、84.0%であったが、両方の問いに関しても昨年度よりも肯定的回答は下がった。

全部の質問項目について一定の理解は頂いているが、昨年度をすべて下回った。これについては問題を把握する必要があるが、一つ考えられることは調査した時期が昨年度と異なった時期であったことと回収方法についても異なったことが挙げられる。

## 生徒による学校評価

### (1) 学校運営について

4項目の質問に対して、肯定的回答は80%~86%であった。どの項目も昨年と比べ上がっている。特に「社会の変化や生徒・保護者の要望に対応している」の質問に関しては昨年の76.1%から81.0%に上がっている。生徒一人一人のニーズを見極めて指導している成果ではないかと考える。

### (2) 授業・学習指導について

4項目の質問に対して、肯定的回答は83%~87%であった。どの項目も昨年と比べ上がっている。「指導方法・内容に工夫・改善を加え、わかりやすい授業展開に努めている」の質問に関しては昨年の82.0%から87.3%に上がっている。教員の多くが生徒の実態に合わせてきめ細かな指導及び評価をしていることが、生徒に伝わったものではないかと考える。

### (3) 生徒指導について

4項目の質問に対して、肯定的回答は80%~85%であった。どの項目もほぼ昨年と同様であったが、「部活動・学校行事・生徒会活動に熱心に取り組むよう、指導が十分に行われている」の質問に関しては昨年度86.0%から84.1%と下がっている。部活動に関しては一部の生徒が頑張っているが、学校全体では盛り上がりきっていない。学校の規模の割には部活動の数は決して少なくないので、自分に合った部活動を見つけられる指導が求められると同時にそれが活性化につながると考える

(4) 「生徒の進路希望に応じた、きめ細かな進路指導を行っている」の質問に関しては、肯定的回答が昨年の89.3%から88.6%と下がった。また「進路情報を積極的に生徒・保護者に提供してくれている」の質問に関しても昨年の88.2%から86.2%と下がった。進路指導に関して若干、思い通りに行かない進路選択に関して不満があったのかもしれないと考える。

### (5) 健康・安全について

「生徒の安全・健康管理に積極的に取り組んでいる」の質問に関しては、肯定的回答が昨年の87.2%から87.5%となり、「学習環境の整備が整っており、安全・快適な環境の保全ができています」の質問に関しては、昨年の77.4%から80.7%と上がった。少しずつではあるが改善がなされてきたことを実感していると考えます。

## 4 課題と改善方策

### (1) 学校運営について

#### ① 教育目標等について

大原高校の教育活動は、社会の変化や保護者・生徒の要望を概ね答えていると言えるが、今後、地域の変化、特に生徒が減少していく状況を踏まえ、総合学科の高校として、どのような学校づくりをしていくか将来的なビジョンを持つ必要がある。

一つとしては、統合前の各学校での特色的な学習を継承している各系列学習の充実を図ること。また、将来の学校の在り方についてのコンソーシアムを立ち上げ検討していく。

#### ② 情報提供について

生徒・職員からの肯定的回答は昨年より上がっているが、保護者からの肯定的回答は逆に下がっている。より丁寧に保護者への提供を行っていくためにはHPの充実もさることながら、他の情報手段も充実させていかななくてはならない。今年度より「まちコミメール」を復活させ情報発信を行っているが、登録数が十分でない為、浸透していないこともある。登録数の拡大を図っていく必要もある。

### (2) 授業・学習指導について

生徒からの肯定的回答は昨年よりも上がっている。これは職員一人一人の丁寧な指導が実践されているものと考えますが、職員の肯定的回答はそうでもない。まだまだやれるという気持ちの職員が多くいると考えるので、職員一人一人が現状に満足することなく精進することが大切である。その手段の一つとして教員同士で互いの授業を見学しあう機会など数多く設定するなど考えていく。そういった行動が保護者理解にもつながっていく。

### (3) 生徒指導について

生徒からの肯定的回答は昨年度よりも上がっている。それに比べ保護者・職員の肯定的回答は下がっている。今後は今以上に生徒一人一人の特性を見極め、個に合った指導を行っていくとともに、部活動に関しては部活のガイドラインに沿った指導のもと、さらなる充実を図っていくため創意工夫が必要である。

### (4) 進路指導について

職員からの肯定的回答は昨年度よりも上がっているが、保護者・生徒の肯定的回答は下がっている。職員サイドから見れば一生懸命に生徒に寄り添って指導しているつもりではあるが、それが保護者・生徒へは伝わっていないのが現状である。1年次から取り組んでいる本校のキャリア教育の体系について来年度以降、評価を行っていく必要があると考える。また、進路実現に向けて今まで以上に生徒・保護者の意見を反映させられる形、例えば3者面談の機会を増やしていくなど改善が必要かもしれない。いずれにしても問題点を洗い出して対策を講じていかななくてはならない。

(5) 健康・安全について

職員・生徒からの肯定的回答は昨年度よりも上がっている。これは今年度普通教室にエアコンが設置されたことも大きな一因と考える。しかし、保護者からの肯定的回答は下がっている。これは教室へのエアコン設置に関して周知されていないのかもしれない。エアコンだけでなく、学校の色々な情報を保護者へ提供していかなくてはならないと考える。

(6) 働き方について

この項目は職員のみであり、また今年度から実施した。不祥事や各種ハラスメント撲滅に関する取り組みについて肯定的回答が6～7割程度であり、各種研修会等を実施して、職員一人一人の意識の高揚を図るとともに「24時間、教育公務員」であるという自覚を持ち続けさせることが肝心である。

また、総労働時間の縮減に関しては、行事の精選、部活動のガイドラインの順守、事務量の削減など課題は山積しているが、早急に対応していかなくてはならない事案である。